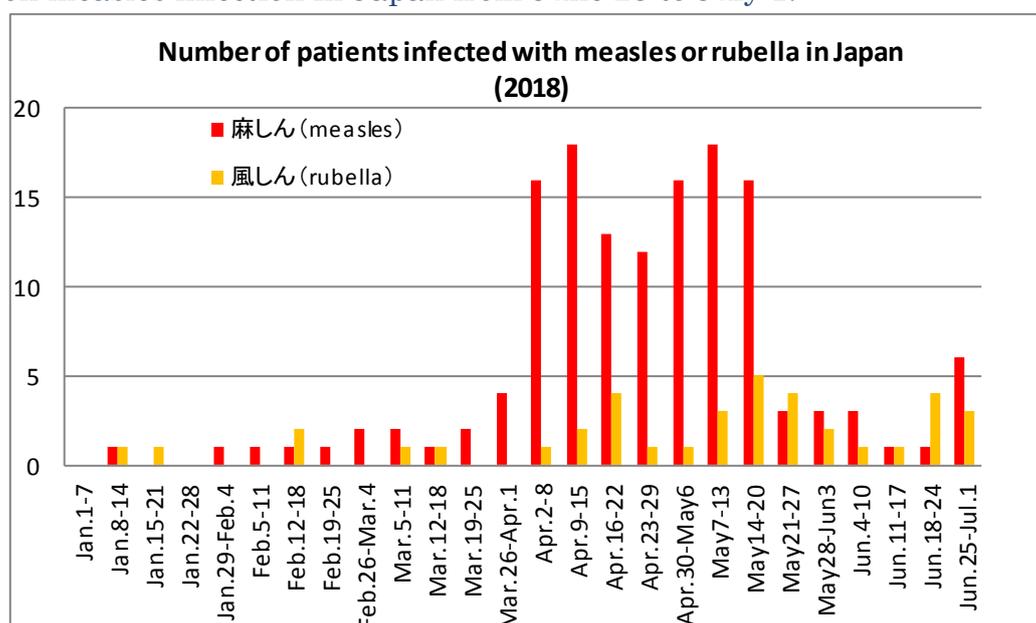


麻疹（はしか）と風しんの患者発生状況 Information on Measles and Rubella

2018年6月25日から7月1日の週において、全国で、麻疹の発生報告が6件ありました。

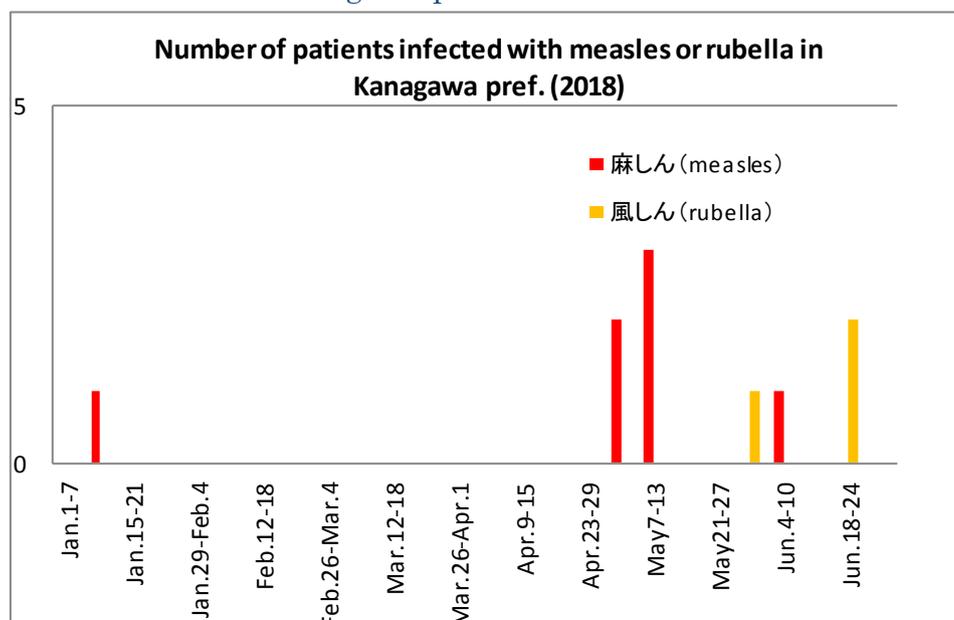
6 reports on measles infection in Japan from June 25 to July 1.



(資料：国立感染症研究所 感染症動向調査)

神奈川県において、2018年6月25日から7月1日の週、麻疹発生への報告は0件でした。風しんの発生報告も0件でした。

0 report on measles infection in Kanagawa prefecture from June 18 to 24.



(資料：国立感染症研究所 感染症動向調査)

麻しんの感染防止について

2007年から2008年にかけて、全国で麻しん（はしか）が流行しました。その後、流行はなく、2015年3月に、世界保健機関（WHO）は、日本は麻しんの土着株が存在しない「排除状態」にあると認定しました。ただし、輸入感染症としての麻しんの発生は、散発しています。

● 麻しんとは：

麻しんは、主に咳・くしゃみ等による飛沫によって、麻しんウイルスが人から人へ伝播して感染します。感染後10-12日後に高熱（38-39℃）、咳・鼻水等の上気道炎症状、眼（結膜）の充血がほぼ同時に出現、2-4日間持続し、続いて全身の皮膚（顔や頸-胴体-四肢の順）に発しん（赤いぶつぶつ）ができ、発しん出現の3-4日後から、熱が下がり発しんが治り始めます。合併症がなければ7-10日の経過で回復します。麻しんウイルスに暴露されると、免疫のない人はほぼ100%感染し、乳幼児と18才以上の方が罹ると重症化して肺炎や脳炎を起こし易く、死亡する場合があります。ウイルスに対する治療法はなく、対症療法に限られます。

● 罹ってしまったら：

1. 初発症状（発熱、咳・鼻水、眼の充血）が見られたら、登校・出勤せず、最寄りの病院を受診してください（受診する際はあらかじめ病院に電話し、麻しんの可能性があることを伝えた上で、受診の可否を確認してください）。
2. 大学内で上記の症状に気付いたら、すぐ保健管理センターを受診してください。
3. 平熱にもどった後3日間は、他の人に移す可能性が大きいので、欠席・欠勤の上、病院受診以外の外出を控えてください。学校保健安全法では、麻しんは第2種の感染症に定められており、**発しんに伴う発熱が解熱した後3日を経過するまでは出席停止**とされています。
4. 麻しん（はしか）と診断されたら、速やかに、下記に連絡してください。

・保健管理センター事務室 電話：045-339-3153 メール： healths

※メールアドレスは、後ろに @ ynu.ac.jp をつけてください

● 免疫と予防接種について：

子供の頃、麻しん（はしか）に罹った人は、ほぼ100%感染しません。麻しんの免疫のない人がウイルスに暴露されると、ほぼ100%感染します。予防はワクチン接種のみですが、1回の接種では、10年経つと効力が低下している可能性があります。まだ麻しんに罹ったことのない人で、ワクチン接種をしていない人あるいはワクチン接種を1回しか行っていない人は、早急にワクチン接種を受けましょう。

予防接種可能な医療機関は横浜市ホームページ（健康福祉局、予防接種）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination.html>

を参照してください。

予約等が必要ですので、電話で確認の上受診してください。

風しんの感染防止について

学生・教職員の皆様にはこの病気を知っていただき、感染予防・拡大防止にご協力をお願いします。

● 風しんとは：

日本では、春から初夏にかけて最も多く発生します。主に咳・くしゃみなどの飛沫によって、風しんウイルスが人から人へ伝播して感染します。感染後 14-21 日の潜伏期間の後に、発熱、発しん、リンパ節腫脹（頸部、耳の後ろ）が出現します。

● 罹ってしまったら：

1. 上記のような症状（発熱、発しん、リンパ節腫脹）が見られたら、登校・出勤せず、最寄りの病院を受診してください（受診する際はあらかじめ病院に電話し、風しんの可能性があることを伝えた上で、受診の可否を確認してください）。大学内で上記の症状に気付いたら、すぐ保健管理センターを受診してください。
2. 発しんが消失するまでは、欠席・欠勤の上、病院受診以外の外出を控えてください。学校保健安全法では、風しんは第 2 種の感染症に定められており、**発しんが消失するまで、出席停止**とされています。
3. 風しんと診断されたら、速やかに、下記に連絡してください。

・保健管理センター事務局

電話： 045-339-3153

メール： healths

※メールアドレスは、後ろに @ ynu.ac.jp をつけてください

● 免疫と予防接種について：

感染力は麻疹ほど強くはありませんが、免疫のない人がウイルスに暴露されると、感染する可能性が高い疾患です。一度、風しんに罹った人は、その後は、ほぼ感染しません。予防はワクチン接種のみですが、1 回の接種では、10 年経つと効力が低下している可能性があります。まだ風しんに罹ったことのない人で、ワクチン接種をしていない人あるいはワクチン接種を 1 回しか行っていない人は、ワクチン接種を受けましょう。麻疹との混合ワクチンが広く用いられています。

予防接種可能な医療機関は横浜市ホームページ（健康福祉局、予防接種）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination.html>

を参照してください。

予約等が必要ですので、電話で確認の上受診してください。

Measles Epidemic

Measles is one of the most contagious diseases, transmitted by the air, saliva, and direct contact with an infected person.

● What is measles?

Incubation period: 10-12 days

Symptoms: the first 2-4 days; cough, runny nose, high fever (100-102° F/38-39°C) and red conjunctiva the second 3-4 days; rash and high fever (100-102° F/38-39°C)

Complications: pneumonia, encephalitis

Medicine: none

● If you have these symptoms;

Please, don't come to the university, and go to the nearby hospital.

After that, contact the Ryugakusei-ka (The Student Exchange Division) by TEL; 045-339-3182 or E-mail; ryugakusei.kikaku@nuc.ynu.ac.jp

Please, stay home until 3 days after you get a normal temperature.

● Prevention;

If you have never had measles, please have the vaccination now.

At The Health Service Center, you may get an information about those hospitals doing vaccination against measles.